

新年にあたって

市川治療室 No.294.2013.01

毎月お送りしている情報は1986年から隔月で始まり、
1990年からは毎月お送りするようになり今回で 294回目となりました。
この数年は、初心を忘れないようにとの気持ちで
下記の文章を繰り返し記載させていただいています。

.....

科学をする人は、「なぜ」「どうして」と考えている。
…人間は「なぜ」と思ってもすぐに忘れちゃう。
あるいは、適当な説明を聞いて納得しちゃう。
これじゃだめで、自分の頭にずーっと持っておくのが大事だと思います。

常識は大事なんだけど邪魔するものなんです。
不思議だなと思ったことは、ちゃんとした答が出るまでその質問を
ずっと忘れないで下さい。その答が出るとものすごく嬉しい。

科学の一番の良いところは、いったんその味を覚えたら忘れないということです。
答が分かった時の面白さ、それが発見であるわけです。

科学は自分が納得するかしないかであって誰だってできる。
発見は回りの人が大事に思うかどうかではなく自分にとって大事なら嬉しいんです。

… 養老孟司氏の講演から

.....

サイエンスとはもともと何かと言えば、ラテン語のscientiaで知識そのものを意味している
scientiaは、scio（知る）の名詞形であり、
サイエンスとは、本来、知ること全体、知識の総体を指しているのである。

…科学というものは、本来おもしろいものである。
分かれば、こんな面白いものはない。何がどうなっているかを知りたいというのは、
人間が生まれながらに持っている、どうしようもない本性であって、
その本性につき動かされて出来上がったのが科学という知の全体像なのだから、
これが面白くなかろうはずはないのである。

もちろん分からなければ面白くないし、分からないものを分からなくても良いから
とにかく覚えろというようなプレッシャーをかけられたら（一貫してそれをやってきたのが
日本の科学教育ならぬ理科教育だった）面白かろうはずがない。

私は、リットンシュタインの「語りうるものはすべて明晰に語りうる」という言葉の信奉者で
自分の特性は、難しいことを分かりやすく語ることにありと思っています、
この仕事を続けてきた。

… 立花隆氏の著書から

.....

『100年たっても腐らない情報は科学的なもの』
『身体の問題、健康の問題はごまかしがきかない。それは科学の問題だからである』
ということをお師・三石巖先生に教えていただきました。

今年も科学的な健康情報をお伝えしたいと考えています。

.....

以下は一昨年4月のお知らせに書かせていただいた文章です。

…大震災の映像を見た海外の方々からPC上に下記の様な反応がありました。
「なにがあって日本文化はこんなに一致団結しているんだろう。全員がやってはいけないことを瞬く間に理解して、そういうことには近寄らない。やるべくことを認識して、一番早くて良い方法は何かを追求する。…しかも、静かに」

世界一流の技術と日本文化が復興の可能性を高めてくれます。「頑張ろう日本」